

【貝原塚おこど囃子についてのお話(囃子の始まり、名前の由来等)】

◇囃子の始まりには諸説があります。その一つに、今から 400 年前頃の寛永年間(1624-44)に貝原塚で行われていた五穀豊穰(作物が豊かに実るよう)、悪病退散(悪い病気にかかりませんよう)、天下泰平(世の中が平和に治まるよう)と鎮守の八坂神社に祈る「花見オコト」「花見祭礼」「起土祭礼」があります。このお祭りで笛や太鼓を打ち鳴らして踊り、やがて1年の農作業のおこど始めの行事となり、その時に演奏されていたお囃子が「おこど囃子」と呼ばれるようになったといわれています。

もう一つは、貝原塚に疫病(悪性に伝染病)が流行するようになり、これを退散するご利益がある稲敷市の大杉神社(通称アンバ様)の「アンバ囃子」を村民が囃し立てて疫病を村の外へ追いやったというのが「おごど囃子」の始まりといわれています。

また、地元の言葉の訛りを受けて一時は「おごど囃子」と呼ばれていましたが、農作業の始まりで土を耕すという「起土」を始まりとすることから「おこど囃子」の名称に統一しました。

◇太平洋戦争もあり、貝原塚おこど囃子は絶えそう(なくなりそう)になっていましたが、戦後に町のお年寄りたちの努力により復活しました。昭和45年(1970)に囃子の保存会が組織され、昭和53年(1978)3月22日には龍ヶ崎市指定無形民俗文化財となりました。

◇現在は、龍ヶ崎の夏のお祭りのメインイベント、国選択・茨城県指定無形民俗文化財である『龍ヶ崎の撞舞』では、躍動する舞男に妙技に合わせたお囃子を演奏しています。この他に、市の福祉イベント等でも演奏しています。

【貝原塚おこど囃子の実演】

◇貝原塚おこど囃子には、6つのお囃子があります。

1.シャンギリ 2.通り安波 3.大杉 4.矢車 5.神田 6.馬鹿があります。

シャンギリは、お囃子演奏の際、一番初めに演奏する曲です。

実はシャンギリには、これからお聴かせする他のお囃子とは違う特徴があります。

どのような特徴なのか、聴いて感じてみてください。

それぞれの曲には、それぞれの特徴があります。

どのような特徴があるのかな？

曲の感じはどのように違うのかな？

どのような楽器が使われているのかな？

それぞれの楽器は、どのような音色を奏でるのかな？

など、色々と感じながら、聴いてみてくださいね。

【郷土芸能の継承について:継承者の願い】

◇貝原塚おこど囃子も、撞舞も、人から人への口伝え手ほどき、見よう見真似でその技術などが伝えられる、無形の文化財です。

受け継ぐ人がいなくなったら、どうなるのでしょうか？

昔は、貝原塚町に住む子どもたちは、みんなおこど囃子を習っていたのですが、現在は、受け継ぐ人が大変少なくなり、貝原塚おこど囃子も、いつまで演奏できるか分からなくなりました。

八原地区や龍ヶ崎に住む地域の皆さんで、郷土芸能を守っていけたら、と願いながら、活動しています。